

Neuropsychiatric Disease and Treatment 2016; 12:1739-1746.

## ESSENCE-Q - a first clinical validation study of a new screening questionnaire for young children with suspected neurodevelopmental problems in south Japan.

(ESSENCE-Q—日本の南方で行なわれた、神経発達的問題が疑われる幼児に対する新しいスクリーニング質問紙の最初の臨床的妥当性研究)

### 執筆者

Yuhei Hatakenaka, Elisabeth Fernell, Masahiko Sakaguchi, Hitoshi Ninomiya, Ichiro Fukunaga, Christopher Gillberg

### 概要

#### 【背景】

自閉スペクトラム症、知的発達障害、注意欠如多動症、その他の神経発達障害/問題を早期に鑑別することは重要なことである。しかし、誤った「様子を見ましょう」というパラダイムにより、しばしば診断が遅れてしまっている。神経発達の診察が必要になる早期徴候症候群の質問紙 (ESSENCE-Q) は、簡潔な (12 項目) のスクリーニング質問紙である。ESSENCE-Q は、特に多種多様な神経発達上の問題を識別するプロセスをスピードアップすることを目的として開発された。研究の目的は、1) ESSENCE-Q の信頼性を推定すること、2) ESSENCE-Q の開発者によって提案された臨床的なカットオフ値を評価すること、3) ROC 解析に基づく最適なカットオフ値を提案することである。

#### 【方法】

日本の高知県において、発達の問題で紹介されてきた 6 歳以下の子どもたちのアセスメントとして、ESSENCE-Q が 1 年間使用された。子どもたちは、発達障害の診断基準を満たすかどうかに関しても臨床的評価を受けた (診断あり、診断なしの群)。130 ケースにおける ESSENCE-Q の結果と臨床的診断評価の結果を対比させた。

#### 【結果】

クロンバックの $\alpha$ 係数は 0.82 であった。感度は 0.94 (95%信頼区間 CI: [0.88, 0.98])、特異度 0.53 (95%信頼区間 CI: [0.28, 0.77]) だった。これは、スクリーニングツールの最初のステップとして合理的な心理測定結果である。ROC 解析に基づき、我々は ESSENCE-Q の最適なカットオフ値として、『「はい」が 2 つ以上』もしくは『「たぶん/少し」が 3 つ以上』を推奨することにした。(感度 0.87 (95%信頼区間 CI: [0.79, 0.92])、特異度 0.77 (95%信頼区間 CI: [0.50, 0.93]) )

#### 【結論】

ESSENCE-Q は、臨床場面で神経発達障害を早期に鑑別するプロセスを助けるスクリーニングツールとして、よい道具となり得るであろう。より広汎な ESSENCE-Q の妥当性と信頼性を評価するためには、ケース・コントロール研究や一般人口を年齢別の群に分けて検討することが必要になる